

# 生駒市長の小紫雅史です。

生駒市は2021年に市制50周年を迎えます。

これまでの発展にご尽力いただいた皆様へ感謝し、それを土台としながら、市民・事業者など多くの皆様と力を合わせて、「次の50年の発展」を見据えたまちづくりを進めていきます。

人口減少、少子高齢化、地方創生、人生100年時代、急速な国際化、AI・ICTやロボットなどの最先端技術の進展など、激動する社会変化の中で、生駒市が今後も発展を続けるためには、単なる「ベッドタウン」を卒業し、「新時代にふさわしい新しい住宅都市」を創り上げることが不可欠です。

現在、多くの方と対話し、共感を得ながら、マニフェストを作成中ですが、今回の市政ニュースでは、いこまの未来のまちづくりに不可欠な「5つのキーワード」についてまとめました。是非ご一読のうえ、ご意見ください。

こむらさき雅史

## こむらさき雅史プロフィール

- 1974年 兵庫県生まれ 44歳 一橋大学法学部卒  
妻と子ども3人 子育て奮闘中
- 1997年 環境庁(現・環境省)に入庁
- 2002年 シラキュース大学(米国)行政大学院に留学
- 2007年 在米日本国大使館(ワシントンD.C.)に勤務
- 2012年 生駒市副市長に就任
- 2015年 生駒市長に就任

## いこまの未来のまちづくり「5つのキーワード」

### 1 市民とともに汗をかきながら進めていく「自治体3.0」のまちづくり

どの自治体よりも市民と職員の距離が近く、対話と共感により信頼関係を強めながら、ともに汗をかいて市民目線での課題解決や将来のまちづくりを進める「自治体3.0」の取り組みをさらに進めます。



### 2 「ワーク・ライフ・コミュニティの融合」を具体化するまちづくり

人生100年時代を見据え、定年まで働き余生を楽しむ「Bed-Town(ベッドタウン)」から、その地域に「暮らす」ことが、「仕事」「家庭」そして「地域」にもつながり、人生のステージごとに自分らしい生き方を実現できる「DiverCity(多様性があり住みたくなるまち)」へと進化させていきます。



### 3 市民全員の力を一つにする(Inclusive) 12万人総親和のまちづくり

生駒市内の各地域、新旧住民、各世代間、また、疾病や障害の有無、国籍や性別などの違いを超えて、それぞれの特色を活かしながら自然な形で融和し、生駒市民12万人が助け合いながらもお互いの力を合わせた安心して楽しく過ごせるまちづくりを進めます。

### 4 生駒市の強みや特性を最大限生かした「稼ぐ」まちづくり

ゼロベースの事務事業の見直しなど徹底したコスト削減に加え、生駒市が街全体として収益や雇用を生みだせるよう、市民・商工会議所・事業者等とともに住宅都市いこまの強みや特性(自然・伝統、先端技術、退職者や主婦のスキル、市民力など)を生かしたまちの活性化を進めます。

### 5 最先端技術と自然・伝統・歴史がつながるまちづくり

奈良先端科学技術大学院大学や学研高山地区第2工区におけるAI、IT、ロボット、バイオなどの最先端技術と、全国屈指の豊かな自然・伝統文化・芸術が融合するいこまの特性を最大限生かしたまちづくりを進め、国際化する世界の中で大きな注目を集める地域を創り上げます。

市政  
報告会  
開催

平成31年

1月13日 日 15:00~16:30 14:40開場  
鹿ノ台ふれあいホール

2月11日 月 15:00~16:30 14:40開場  
セイセイビル文化ホール



生駒市公式HP  
WEB市長室



こむらさき雅史  
公式HP



こむらさきまさし



@komuchan2001

日々、情報  
発信しています!